

平成 27 年度

定期監査報告書

養父市監査委員

養 監 第 4 5 号
平成 27 年 12 月 2 日

養父市長 広瀬 栄 様

養父市監査委員 守 本 英 昭

養父市監査委員 西 谷 昭 徳

定期監査の結果報告

地方自治法第 199 条第 4 項の規定に基づき、平成 27 年度定期監査を実施したので、同条第 9 項の規定により報告する。

記

1 監査の期間

平成 27 年 11 月 4 日から平成 27 年 11 月 26 日まで

2 監査の対象及び範囲

企画総務部・市民生活部・健康福祉部・産業環境部・まち整備部・議会事務局及び教育委員会の平成 27 年度上半期の財務に関する事務の執行及び経営に係る事業の管理状況

3 監査の要領

地方自治法第 2 条の規定に基づき、市の事務事業が効率的かつ効果的に執行及び管理されているかに留意した。

監査の重点項目として、収納対策事務については、効率的に収納事務が行われているかについて監査を実施した。

予算の執行状況、主要事業・新規施策の取組状況、工事・業務の進捗状況、組織及び業務内容・財産管理事務等について関係資料及び書類等の提出を求め、関係職員より説明を聴取した。

また、工事関係等の現地調査を実施した。

4 監査の結果

監査の結果、概ね良好に執行されているものと認めた。

次のとおり重点項目及び各部局における主要・新規施策等に対し意見を付して報告する。

監査意見

1 収納対策について

平成 27 年度の「各収納主管課の目標値と実績」を見ると、全体で収納目標額 5,508,928 千円に対し、9 月末実績は 2,562,378 千円となっている。

内訳は、現年度分が収納目標額 5,439,952 千円に対し、実績は 2,519,704 千円、過年度分は収納目標額 68,976 千円に対し、実績は 42,674 千円となっている。9 月末で全体の実績が目標の 55.84% であり、概ね順調な収納状況となっている。

今年度も 12 月を中心とした「未収金徴収強化月間」などの方策を講じ、年度末にはさらなる成果を上げられたい。

2 公用車事故状況について

平成 27 年 9 月末までの事故件数は 18 件で、うち賠償案件が 4 件と昨年の件数 3 件を上回っており、昨年度は整備不良による事故も発生している。

対策として

- (1) 庁議、職員朝礼等、機会あるたびに注意喚起
- (2) 研修会を実施し、安全運転や適正な車両管理等について徹底
- (3) 使用日誌の様式を変更し、適切な運行管理を徹底
- (4) 突発的な災害出動に備えた早めの給油の徹底

等を行っているが、事故の減少に至っていない。

今後の方針として、職員の意識改革、講習会の開催、注意喚起の再度徹底等を掲げているが、職員の事故に対する意識は未だ不十分と見受けられる。事故防止については、全職員が「事故は起こさない」という強い自覚で真剣に取り組み、未然防止に努められたい。

3 防災行政告知システム整備事業について

情報センターと合同で、平成 26 年 12 月から平成 27 年 7 月までの間 160 カ所において地区説明会を実施している。

各戸の端末設置は平成 27 年 12 月から開始し、平成 28 年 3 月運用開始予定であるが、設置時は市民に丁寧な説明を行い、トラブル等が起きないようにスムーズな移行に配慮されたい。

4 やぶ婚活応援事業について

平成 27 年 9 月末現在で、縁結び世話人登録者 134 人、奨励金交付者数 0 人となっている。

世話人登録者に向けた情報提供がなされておらず、登録で終わっていることが成果に結びつかない要因となっている。今後、登録者への情報提供を行うな

ど、婚活支援に向けた取り組みを行われたい。

5 空き家バンク制度の活用について

平成 27 年 4 月から 9 月末までの実績は、物件登録 6 件、利用者登録 16 件、成約 3 件となっている。

成約 3 件は、すべて市外からの移住者であり、少しずつではあるが成果が出てきていると見受けられた。しかしながら、空き家バンクの登録件数が少ないため、新規の掘り起こしが今後の課題となっている。

予定では、年内に空き家調査を行い、平成 28 年 3 月末には養父市の空き家件数を確定することであるが、調査件数も含め、関係団体及び住民に協力を得られる体制をつくり、今後、登録件数の増加及び成約につながるよう努められたい。

6 木彫フォークアートおおや事業について

毎年開催される全国公募展「木彫フォークアートおおや」は、22 回を数えており、平成 27 年度は 9 月 18 日から 10 月 4 日まで開催された。今年度の応募作品は 124 点、来場者数は 5,718 名であり、年々増加している。市も入賞作品を毎年購入しており、現在 126 点を保有している。そのうちの約 50 点は、木彫展示館や学校に展示したり美術館等に無料で貸出ししているが、多くの作品は保管状態になっている。優秀な作品なので保管しておくのではなく、市民の皆さんに鑑賞していただくなど作品の有効活用に努められたい。

7 おおや堆肥センター利用状況について

平成 27 年度から販売 PR の促進や堆肥散布開始時期の前倒しにより受注が増加した。さらに、兵庫県堆きゅう肥共励会にて最優秀賞である知事賞を受賞したことも追い風となり、堆肥の販売量は、平成 26 年度 9 月末より 239 トン増加している。

しかしながら、10 月以降は秋に受注が増えるものの、来年の春までは横ばいと予想されるので、販路の拡大を図り、販売量の増加に努められたい。

8 養父市地域公共会社について

やぶパートナーズ株式会社の平成 27 年度中間実績については、売上 52,350 千円、売上原価 30,800 千円、売上総利益 21,550 千円、販管費 32,000 千円、営業損失 10,450 千円、営業外収益 4,350 千円、経常損失 6,100 千円となっている。

平成 25 年 5 月 23 日に、養父市が資本金 600 万円を全額出資して設立された会社であり、平成 27 年 7 月に 1,400 万円の増資を行い現在資本金 2,000 万円となっている。

提出資料を見ると売上は前年に比べ微増しているが、収益確保には至っていない。上期においては商品企画費、原材料費、販管費支出が増加しており、下期における売上を確保するための経費である。

商品販売について、コンビニエンス事業で売上目標 120,000 千円、当該事業以外で米と特産品セットの予約も受注しており、他の商品も販路開拓を積極的に行うことで徐々にではあるが伸びており、既に受注分として約 15,000 千円の下期売上が見込まれるが、安定的な利益確保が可能となるまでにはまだ時間が必要とのことである。

今後の会社の経営状況、事業計画書及び収支計画表等の徴求状況や内容の把握について担当課に聴取するも、回答が不十分であった。今後、新たな財政負担とならないように留意されたい。

9 学校給食管理運営事業について

平成 27 年 1 月から新しい給食センターが稼働し、25 人体制で一連の作業を行っている。地産地消を推進し、成長期にある子供たちの心身共に健全な発達と、望ましい食習慣の獲得を図るべく、日々、バランスのとれた栄養豊かな給食を提供されている。

新型ノロウイルスや異物混入事例等が報道されているが、養父市においても衛生管理等については、日々の作業や最新情報により既に作成したマニュアルを随時更新しながら未然防止を図り、今後も安全・安心な給食の提供に努められたい。